



# 木曽川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2024年11月10日(日) 9:30~12:00(曇り)

参加者 一般:5名

指導員:4名

## テーマ 晩秋の花と虫

秋の花と虫を見て回りました。

川原におりた所でキダチコンギクが白い花を付けていました。外来種ですが、一時期と比べると随分少なくなった感じです。よく似たヒメシヨオンの花もあったので、舌状花の形と色、総苞の形状などを比較することができました。

いつも通る川原は草刈り後で観察対象となる植物は少ないのですが、草刈りによってキツネの巣穴が確認できました。巣穴は新しく、周りの足跡もしっかり見られました。このキツネは、まだまだ健在のようです。

高水敷で昨年の秋まで竹林だった所が昨年12月に切り開かれ、1年近く経ってみると、クサギやアカメガシワといった陽樹とクス、オオクサキビ、コセンダングサなどの草本で覆われています。その中を通る道(工事用車両が通った所)を歩いてみると、カワラケツメイが数株、花と実をつけていました。地中のシードバンクから芽吹いたもののでしょうか、それとも工事用車両によって種子が持ち込まれたのでしょうか。カワラケツメイは昨年までは堤内地の散策路脇で見られましたが、今年は確認できていませんでした。新たな成育場所が見つかって一安心といったところです。ただし、来年はこの道も草に覆われて見に行くことはできないでしょう。せっかくなので、途中で見たアレチケツメイのキノコ状の蜜腺とカワラケツメイの葉柄に密着した蜜腺の形状を比べてみました。

成虫越冬のキタキチョウとツチイナゴは、気温が低下して動きが鈍くなったのか、1週間前の下見の時より見られた数が少なめでした。晩秋によく見かけるオオアイトトンボは池の近くで数頭が見られましたが、まだいてもよさそうなアキアカネの姿は確認できませんでした。

昨年の11月の観察会では咲いていたシロダモはまだ蕾でした。今年はヒガンバナやキンモクセイの開花が例年よりかなり遅かったのと同様、シロダモの花期も遅れているようです。2020年までは11月のテーマは「紅葉・黄葉」でしたが、最近は紅葉の季節が遅れがちで、この日はハナミズキとアメリカハナノキが赤く色づき始めたところでした。いろいろな面で気候変動の影響が出ているように感じられます。(報告:齋竹)

## <その他観察できたもの>

花:コセンダングサ、コバノセンダングサ、アキノノゲシ、ヒメシロ、チャ

虫:ベッコウハゴロモ、マルカメムシ、エサキモンキツノカメムシ、ミナミアオカメムシ(幼虫)ヤマトシジミ、ウラナミシジミ、ウスイロキンノメイガ(幼虫)、オオスカシバ(幼虫)、セイヨウミツバチ

鳥:トビ、ミサゴ、マガモ、ジョウビタキ、ヒヨドリ、キジバト、シジュウカラ、エナガ、メジロ、カワラヒワ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、スズメ、ムクドリ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、モズ(声)、コゲラ(声)、ウグイス(地鳴き)

その他:ウシガエル



(草が刈られて出現したキツネの巣穴を観察)



減少傾向のキダチコンギク



葉柄に密着したカワラケツメイの蜜腺



キノコ状のアレチケツメイの蜜腺



クズの葉にいたツチイナゴ